

「広い利点」

先日、技術の授業を見た。1年生は木工を行っており、本棚を組み立てている。作業の早い生徒は、すでにニスを塗っていた。技術室は4階の中庭に面した教室だ。面積としては特別教室二つ分ある広い教室。30名の生徒が様々な作業をしても狭いと感じないぐらいの空間がある。なぜ、この教室をそんな広い教室にしたのか。

一般に技術科の教室は木工室、金工室と二教室を割り当てる。しかし、技術科の授業時数が少ないこともあり、新校舎では木工と金工の二つの機能をもった一つの教室にすることにした。木材や金属加工の大きな工具が入るため、奥に大きなスペースを作った。だが、その後、そのような工具を入れないことになった。結局、新校舎に移ったとき、技術室の奥は古いロッカーを置いたものの、ただ広い空間になってしまった。しかし、授業を見ると、ロッカーの上がニスを塗る作業台になり、ロッカーなので作品をその中に入れることも可能で、机も汚れない。技術室としてはとても使い勝手の良い教室になっていた。広さを有効に使っている。

広い教室はもう一つある。2階の西側、太成倉庫側に面して、普通教室の2倍の広さの教室がある。中央はパネルで仕切ることができ、二つの教室として使うことも可能だ。たとえば、80人ぐらいなら十分にこの教室で授業を行うこともできる。また、学年の保護者会を行うにも、ちょうどいい大きさだ。キャスターのついた個別の机だから、移動も反転も簡単にできる。実は、この教室、生徒数が増加したときのことを想定して用意された教室。3階や4階は校庭に向けて7つの教室が並んでいる。しかし、2階は会議室を入れても5教室。1つの学年の学級数が5クラスを超えることは考えにくい。仮にそうなっても、この多目的ルームを教室に変えれば、普通教室で7×3教室用意することができる。

そのほかにも、図書室や多目的ルーム、そして校舎の広さを感じさせるのが中庭である。この設備を有効に活用し、充実した教育活動に結びつけたい。

2月22日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 図のように、 AB と DC が平行な台形がある。上底と下底の長さの比は $2:3$ であった。このとき、三角形 ABC の面積は、元の台形の面積の何分のいくつでしょうか。(今年度都立高校入試問題の一部)

